

英語 W アカデミックライティングのまとめ

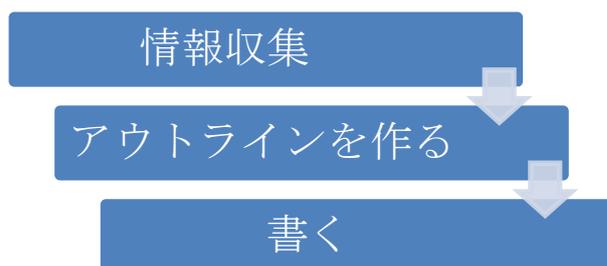
教科書のまとめを作ってみました。

試験に持ち込んでも大丈夫だと思います。

太文字が付いているところは特に気をつけたい点です。

有効に活用してもらえればうれしいです。

0) アカデミックライティングのフローチャート



1) 情報収集

1.1) トピックを選ぶ

1 パラグラフで **5 文** から **10 文** 書けるくらいのトピックにする。(広すぎず狭すぎず)

1.2) 情報収集の具体的方法

ブレインストーミング→思いつくままにとにかく書き出す。

その方法

- ① リスト (箇条書き)
- ② フリーライティング (途中で止まらず文章の形で書いてみる)
- ③ マッピング (あるキーワードから連想してそれらをつなげていく)

1.3) 書く情報の抽出

1.2) で集まった情報を消したり付け加えたり書き換えたりして書く情報を残す。

※パラグラフについて

基礎知識

1 パラグラフ 1 トピック

段落始めはパソコンなら半角 5 文字文、手書きなら **2 センチ** ぐらい空ける

構成するセンテンスの種類は 3 つ (T.S, S.S, C.S の 3 つ)

T.S=トピックセンテンス

パラグラフの要旨をとなる文

主語 (トピック) が目的語 (どうだ) の形の文。

S.S=サポーティングセンテンス

T.S を補強し、妥当性を高めるための文。

C.S=コンクルーディングセンテンス

パラグラフの結論を提示する文。

T.S と同じ内容を表す文を書く。書き方は **T.S** と同じ

膨らませ方

3つある

①詳しく述べる（話題を掘り下げていく）

②説明する

③具体例を挙げる

これらの違いは分かりにくいのでとにかく**抽象的な内容をどんどん具体化していき、最後にまた抽象的な文をもってきてまとめる**っていう感じでよい。

形容詞や接続詞の使い方（ここは読み飛ばしてもよい）

形容詞は人の感情や価値判断を示す。

接続詞は文と文をつなぐ役目を持つ

2)アウトラインを書く

エッセイの構造

導入 (Introduction)

エッセイの概観を述べる。

パラグラフの最後らへんに**論旨文 (Thesis Statement)** =エッセイ全体で一番言いたいことを書く。

本論 (Body)

論旨文を説明しそれを補強する

結論 (Conclusion)

論旨文と同様の内容を書いてエッセイをまとめる。

（同文反復は避けたほうがよい。**T.S** と **C.S** の関係も同様）

※エッセイを書くときの注意点

紙の上下左右を 2.5センチぐらい空ける（テストでは多分気にしなくて大丈夫）

一文→一行あける→次の文→一行あけるという形で書く（見やすさを担保する）

※論旨文について

T.S とは違う (T.S はパラグラフの要旨)

自分の意見を書く (事実を述べるだけでは弱い)

立場を明確にする (反対か賛成か。“どっちも”はご法度)

エッセイの組み立て

(n 段落書くとする $n \geq 3$)

1 パラグラフ目→導入を書くパラグラフ (論旨文を含む)

2~n-1 パラグラフ目→本論を書くパラグラフ

n パラグラフ目→結論を書くパラグラフ

アウトラインは階層構造にして階層ごとに使う文字の種類を変える

I, A, 1 など

3)実際に書く

3.1)パラグラフの書き方 (意見を述べるパラグラフ)

fact と **opinion** を区別する

fact→だれか見ても正しい文

opinion→人によって内容が変わる

opinion の説得力を高めるために **fact** を使う。

助動詞で自分の意見を強める

会話文ではないので会話文にありがちな文頭表現 (I think, in my opinion, I believe, in general) などは使用しない。(自分の意見に自信や確実性がないことを含意してしまう)

因果表現を使う

therefore, since, so, because など

3.1.1)意見の述べ方 1 比較・対比パラグラフ

比較→類似点を述べる

使える単語→and, both, too, neither nor, also, similar to, the same as, likewise, similarly, (just) as 形容詞 as など

対比→相違点を述べる

使える単語→比較級, but, though, while, not the same as, not as as, different from, in contrast, however, on the other hand など

パラグラフとしては

比較内容→対比内容

もしくは

比較内容 1→対比内容 1→比較内容 2→対比内容 2→……

のように書く

2 問題・解決パラ

問題パラ

T.S に取り上げる問題を、S.S にはなぜそれが問題なのかを書く。

解決パラ

解決策を提示する

解決策ははっきりとしていて合理的なものを提示する。

二つのパラのつなぎ表現

in order to solve these problems

in order to overcome these problems

to meet this need

one answer is

a second/third/final answer is(複数解決策があるとき、one answer is と一緒に使う)

one solution is

one thing we can do is

など。

3.1.2)導入段落

5 文から 10 文で書く

論旨文(何「事実」がどうだ「意見」)を書く

興味を引く文を書く(数字や意外性、有名人の言葉の引用などを入れるといいかも)

抽象的過ぎず(読者が興味を持たない)、具体的過ぎず(本文で詳しく書く)、エッセイの背景や概観を書く。

抽象的内容→具体的内容へと狭めていく

3.1.3)結論段落

エッセイ全体を要約する

導入とは違う言葉でまとめる

提案を強調

エッセイで述べたい意見についての最終的なコメントをする。

4)統合性と一貫性を保つ

4.1.1)統合性とは

すべての意見は論旨文と関係している

T.C.以外の文は（当然ながら）T.C.と結び付く文

4.1.2)どのようにして担保するか

見返してみて、無関係な文を探す→編集、捨てる、変えるなどの対策をとる

4.2)一貫性

4.2.1)一貫性とは

要点を分かりやすくするための工夫（接続詞や代名詞や繰り返し表現をうまく用いること）

4.2.2)まとめ方

時系列（歴史、手順などの時間に関するエッセイ）

描写（あるものについて掘り下げていく）

分類（大きな塊で分けてからその塊を説明していく）

比較と対比（やり方は上記参照）

5)最後に

試験では

○設問の指示に従う（何について？何個？）

よくある指示の例

- ・ comparison, contrast（どちらも平等に）
- ・ discuss（論旨文とつながりがある様々な意見）
- ・ **explain, how, show how**（因果関係を書く）
- ・ show, describe, use examples,（詳しく）
- ・

○配点を参考にして時間のかけ方に傾斜をつける

○正しい英文を書く（自信のない表現は使わない）

○きれいに書く（読んでもらえないことも）

等に気をつける

試験本番のタイムライン（一例）

1)メモ書き程度のアウトラインを書く（5分くらい）

2)全体の構成（導入、本論、結論）や段落の構成（T.S, S.S, C.S）、また論旨文であったり意見文と事実文をはっきりさせるといったいわゆる形式的な部分に注意を払って書く

3)見直しをして、自身のない表現や論旨文と関係がない文章をカットしたり再編集したりする

※アウトラインは用紙に残しておいてもよい。

こんな感じでみなさん試験頑張りましょう。